新事研会報

第 114 号
発行日　令和８年２月２日
編集/発行　新潟県学校事務研究協議会
E-ﾒｰﾙ　227-jimuken@ngt.ed.jp
新事研 Web　https://shinjiken.ngt.ed.jp

令和７年７月４日　第１回全県支部長会

「変わります」宣言から、会員とともに

新潟県学校事務研究協議会
副会長　江口　伸子

令和６年度は「新事研は変わります」宣言をした１年でした。どうやったら会員のニーズに沿った「変化」ができるのか、理事だけでも、運営部員だけでもなく「会員」と一緒に、組織を変えていくことを考えました。第 41 回研究大会後、様々に「変わること」を提案しようとしてきました。

組織等検討委員会の答申提案にはまだ届かないところが多々あります。検討しているうちにその内容が今の時流に合わなくなっているのでは？と思うこともあります。もっともっといい方法があるのではないかと悩むことも。それでも、「人とつながること」を考えている令和７年度でした。

６年度後半からは、７年度の研究大会を休止し、次の第 42 回研究大会を「会員にとって魅力ある大会」にするために、検討を重ねてきました。運営部員から「参集で開催したい」との声があり、どうすれば、参集の良さを感じられる大会にできるか、運営方法は？予算は？会員はどんな風にかかわるのか、８月に向けて総務部も研究部も知恵と工夫を凝らしています。

支部長の皆様からも、地区別研修会、支部等活動について、御協力いただいています。組織を維持したまま、急激に変わることはかなり困難です。少しずつではありますが、新事研は変化をし続けようとしています。

変化といえば、利用者が適切に制限できていない状況があった「新事研Ｗｅｂ」の会員用ページのパスワードを変更しました。以前のパスワードは「事務が適切に行われるよう覚えやすいゴロ合わせ」でしたが、新パスワードはいかがですか？（私は覚えきれなくて、メモを頼りにしています。）新事研愛用のパスワードが変わっても、会員同士でつながれる新事研であることは変わらずに。でも、次は何を変えるのか、皆さんと一緒に考える令和８年度を迎えたいと考えています。

地区別研修会報告

上越会場

開催日：令和７年 10 月 29 日　　会場：上越市市民プラザ

はじめに、上越教育事務所長 清水 憲子 様より、特別な支援を要する児童生徒や多様な保護者への対応について、様々な現状や課題、学校事務職員に求められる姿勢などについて御講話いただきました。会員からは「学校事務職員としての対応や事例などの研修機会が少ないので大変勉強になった」との感想が多数寄せられました。

その後、「学校事務と行政をつなぐ」をテーマに、行政機関の勤務経験のある学校事務職員御二方から、行政機関と学校の違いや、御経験を基にしたキャリア形成を見据えたメッセージをお話しいただき、参加者は熱心に聴き入りました。

最後は職階ごとにキャリア形成や業務に関するテーマでグループワークを行いました。大変盛り上がり、実りある時間となりました。また、初の試みとして運営ボランティアを募り運営に協力いただきました。会員同士のつながりを感じられた非常に有意義な研修となりました。

中越会場

開催日：令和７年 11 月 12 日　　会場：長岡リリックホール

令和元年度以来、久しぶりの１日日程での研修会開催となりました。

午前の部は中越教育事務所の皆様より御協力いただき、３コマの御講義を設定しました。

１　中越教育事務所長講話　中越教育事務所長 丸田 功 様

２　服務勤務研修　中越教育事務所学校支援第１課長 神子 尚彦 様、主査 佐藤 恵 様

３　給与・旅費事務研修　中越教育事務所総務課 給与第１係長 塚田 里香 様、給与第２係長 保坂 理恵 様より御講義をいただきました。近年、半日日程では時間不足との参加者アンケートから御講義の時間を少し長めに取りましたが、いざ始まるとあっという間の２時間でした。

午後は「全員が主人公」のチーム作り―主体的に関わりやすくなる職場とコミュニケーション、と題してサイボウズ株式会社 ソーシャルデザインラボ 竹内 義晴 様より、「主体性が生まれやすい職場や関係」をテーマに、組織力と提案力が高まるコミュニケーションの手法について御講演をいただきました。

下越会場

開催日：令和７年 11 月７日　　会場：新発田市生涯学習センター

今年度は数年ぶりの１日開催、そして初の現地参加とオンライン参加のハイブリッド開催となり、そのおかげで上中越から参加される方もいました。

午前の部は下越教育事務所の皆様より御協力いただき、２コマの御講義を設定しました。

１　下越教育事務所長講話　下越教育事務所長 田中 一史 様

２　給与・旅費事務研修　下越教育事務所総務課 給与係 主査 伊花 奈々子 様

田中所長様からは新潟県の教育施策、下越管内の状況等について、伊花主査様からは給与事務指導内容について御講義いただきました。

午後の部は「学校財務の実践と学校事務論」と題して、埼玉県川口市立青木中学校 事務主幹 柳澤 靖明　様より御講演いただきました。その後、実践交流ということで３名の事務職員の実践発表とグループワーク行い、最後に柳澤様、村上市立村上南小学校長 磯部 睦 様より御助言をいただき、実り多い秋の１日を過ごすことができました。

北越地区富山大会　全事研新潟支部分科会発表報告

令和７年８月７日、富山県教育文化会館にて第８回北越地区公立小中学校事務研究会研究大会（富山大会）が開催され、北越地区（新潟・富山・石川・福井）の公立小中学校事務職員が一堂に会しました。本大会は「学校のウェルビーイングを考える事務職員」を主題に、学校におけるウェルビーイングの向上に学校事務職員がどのように関わり、どのような価値を生み出せるかを多面的に探究する場として設定されました。全事研新潟支部（新潟県学校事務研究協議会、新潟市学校事務研究協議会の合同プロジェクトチーム）は第１分科会を担当しました。

分科会では「協働から協創へ～共に創る学校のウェルビーイング～」をテーマに発表を行い、新潟支部が考えるウェルビーイングの具体像として、児童生徒が安心して学び主体的に活動できる「学び心地の良い学校」、教職員が働きやすさと共通理解を感じられる「教え心地の良い学校」、地域や保護者が参加しやすく信頼関係を築ける「支え心地の良い学校」を掲げました。子どもや教職員、地域住民、保護者が連携し、やりがいや達成感等を感じながら、より良い学校を実現していくことが重要となっています。これらを実現するためには、従来の協働に留まらず、目的を共有し対話を通じて、関係者が共に価値を創り出す「協創」の観点が必要であると考え、その概念を基盤に研究を進めてきました。協創は、単なる役割分担による分担作業ではなく、目的の共有、対話を通じた合意形成、新たな解決策の創造などを含む、より発展的かつ能動的な関わり方を指します。

「協創」の具体例として、「既存の校内組織を活用し、協議の機会を増やすことで次年度予算要求に反映させた取組」や「共同実施グループ運営委員会の見直しを行い、教頭会や地教委と連携し、課題解決につなげた取組」「ＩＣＴを活用し共同実施支援体制を構築した取組」「学校運営協議会での熟議をもとに、環境整備に生徒の意見を取り入れた取組」を紹介しました。

昨年度 10 月から準備を進める中で、ウェルビーイングという抽象度の高い概念をどのように学校事務に結びつけ、伝わりやすい形で発表するかが大きな課題でした。メンバー間で何度も議論を重ね、テーマ設定や事例選定、資料構成の見直しを繰り返し行いました。参加者からは、「ウェルビーイングの概念について理解が深まり、事務職員としての実践に広がりを感じた。」「協働から協創への視点は新鮮であり、既存の仕組みを生かしながら新しい価値を創出するヒントになった。」「ＩＣＴ活用や生徒の意見の反映など具体的事例が豊富で、今後の業務改善に直結する内容だった。」等の声が寄せられ、ほっと胸をなでおろしました。

今回の研究を通して、学校事務職員が学校のウェルビーイング向上に果たし得る役割の広さと重要性を改めて確認しました。協働から協創への転換は、学校運営の質向上に直結するだけでなく、児童生徒・教職員・地域住民が互いに良い影響を与え合うウェルビーイングの好循環を生み出す基盤となります。今後もより良い学校づくりに貢献していくために、各校での協創実践を継続、共有していきたいと思います。貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

支部長の皆様に聞いてみました（支部長評価より）

支部長の皆様からいただいた、支部長を経験して感じたこと、やってみての感想を紹介します。

○「支部長として多くの方と意見交換をする中で、支部間の課題や取組の差を実感し、支部のつながりを強める大切さを改めて感じた。また、普段は見えにくい支部運営の実態や課題を深く理解することができ、大変さもあったが、支部の方向性を考える貴重な経験となった。」

○「地区別研修会では支部長だけで企画・運営を行う楽しさがあり、とても有意義な機会となった。自分自身の成長につながる貴重な経験だったと改めて感じている。」

○「他の市町村の人たちと話し合ったり、物事を進めていく経験ができること、支部長（リーダー）としての思いや悩みの共有ができることが支部長会の良さだと思います。」

○「自校の業務+α になり負担がないかといえば嘘になりますが、支部長を経験して得るものは多くありました。例えば、支部長の業務には地区別研修会の運営がありますが、研修を運営するためのノウハウや受講者だったころには気づけない視点を得られたこと、立場が異なる方とのコミュニケーションなど、一つの業務だけでも多くの経験をすることができました。」

魅力ある組織・持続可能な組織に向けて

今年度の主な取組を紹介します。

（１）入会、休会、退会について取扱いの整備
（２）新事研Ｗｅｂリニューアル、会員専用ページパスワード変更
（３）公式ＬＩＮＥアカウントの開設　（４）令和８年度研究大会の検討
（５）地区別研修会の充実　（６）フリー研究チームの開設
（７）きかせてＢＯＸ通信発行　（８）研究部だよりＣＯＮＮＥＣＴ（実践共有編）の発行

ＬＩＮＥで新事研活動の最新情報をキャッチ！

新事研では、会員の利便性の向上、会員との直接的な連絡ツールとしてＬＩＮＥ公式アカウントを開設いたしました。

これまでのメルマガや支部長をとおしてのお知らせ、新事研Ｗｅｂの更新情報などを公式ＬＩＮＥでお届けいたします。

導入に伴い、しばらくの間は、メルマガと公式ＬＩＮＥを併用していきますが、今後、メルマガは公式ＬＩＮＥに移行いたしますので、お早めの登録をお願いいたします。右の二次元コードから登録できます。

便利ツール等の提供を募集しています

新事研では、日頃活用している便利ツール等の提供を募集しております。

提供の際は、提供データとともに、内容を記載した「新事研Ｗｅｂ提供シート」を添付し、新事研担当までお送りください。詳細は右の二次元コードから御確認ください。

【あとがき】今年度最後の発行となりました。１年間ご覧いただきありがとうございました。今後も新事研の活動をわかりやすくお伝えしていきます。